

あすなろの木

光明中(25号)
編者: 校長 上田 薫
No. 26号(最終号)
平成31年3月22日



春 間近

(はるまぢか)



<平成30年度 修了式>

先週の金曜日(25日)、3年生152名の集まり。式場(体育館)中に響き渡った、「遙か」と「旅立ちの日」の歌声は、今でもしっかりと心に残っています。厳粛でかつ感動的な卒業式でした。主役であった卒業生は嬉しそうでしたが、送り手であった1・2年生みんなの気持ちがしっかりと込められていたから式であつた。前日からのイス並べや清掃等の準備も含め、本日に良く整えてくれました。改めてお礼を言いたい。ありがとうございました。

そして、今日は、平成30年度の「修了式」。「修了」とは、「この一年間で取り組んできた、さまざまな教育活動(教科の学習や各種行事、委員会活動や部活動等)を終えること」を意味している。今日予にした「修了証」は、君たち一人一人が歩んできた「証(あかし)」なのだ。一昨日(23日)の木曜日の一時間目、君たちは、それぞれ学年での集会をもち、今年一年のしめくりに行われた。私もその一部を拝見しました。1年生は、各クラスの代表者が、自分のクラスのみならず、いろいろな起ったエピソードなども入れながらメッセージを伝えているところでした。「一人一人がいたから、このクラスが出来あがった。」「新しい日々を始めることができました。」「とても温かい言葉が述べられていました。」

2年生は、学年の先生方お一人ずつ、君たちに「贈ることば」のメッセージを

ているところでした。一年間 君たちと共に過ごしてきた中で、君たちに
向きあい、君たちに寄りそい、励ましたり、一緒に喜びを爆発させて、
厳しく叱ったり、そして時に悲しんだり、思いの全てを届けてきたことを
迷っておられました。

某日の朝、いつものように登校してくる君たちの玄関で迎えながら、君たちの
一年で、身体の成長ぶりを感心と同時に、顔つきや登校の雰囲気、成長が伺え
ることを、数人の先生方と話していました。「えい、みんなおめでとう...」と!

<「価値」ということ>

今日の修学式で話した(伝え)、**「価値」という言葉の意味を絶対に
に忘れてほしくない。**「価値」のも、**「誰かの役に立つこと」という意味。**

自分が取り組んでいる事、**「スポーツに、音楽に、絵を描くこと、文芸に、その他...
出会ったから、今の自分が輝いている。」**その輝きかしているものが、**「自分自身
としての「価値あるもの」**なのだ。

「おめでとう、おめでとう、学校へ来るのが楽しい!」、**他人としての、自分の存在
に「価値」があるのだ。**

学校へ来て、**「君たちと話して、君たちとあいさつを交わして、君たちとふれあう
ことで、私のハツは、とても「幸せ」な気持ちになれる。」**私にとって、先生方にとって
「君たちは、かけがえない「価値」ある存在なのだ!!!」

さあ、春が来る! 昨年10月に植えたチューリップが、冬の寒さを乗り越え、花を
咲かせ始めている。パンジーやビオラなども、その数を増やしている。

明日から始まる「春休み」新しくやってくる**「平成31年度(平成の母の誕生日
4月)」**を、元気に、明るく、いそいそと迎えるために、心と身体の大切な
準備期間にしよう! 4月、元気を顔を待っているぞ!!!

<保護者の皆様へ>

この一年間、本校教育の推進に際し、ご理解、ご協力賜われ、誠に
おかげさまでございました。子どもたちは、日々成長を遂げてくれています。

様々な、ご苦労やご心配をおかけし、誠に、ご迷惑も職員一同お詫言
本校教育の発展に向け努めてまいります。引き続き、よろしくお願い申し上げます。